事故報告集計（はびりす）令和2年9月～11月（12/28付）*9月開所

月	総数	時間							性別		場所							事故の分類（何があった）											理由							
		9時台	10時台	11時台	14時台	15時台	16時台	17時台	男	女	リハ室	勉強室	畳部屋	廊下	庭	車内	不明	転倒	転落	衝突	打撲	他害行為	外傷(擦り傷・切り傷)	捻挫	指はさみ	舌噛み	つば吐き	感染症(発熱・嘔吐)	車内トラブル	異食	事務トラブル	活動内容・周辺状況	要因の遊具・用具	子ども同士の関わり	特性	事務エラー
9月	12	0	9	0	0	2	1	0	10	2	4	2	0	2	2	2	0	2	1	3	3	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	2	4	3	0
10月	5	1	4	0	0	0	0	0	4	1	2	0	0	1	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	2	0	2	1	0
11月	5	3	1	0	0	0	1	0	5	0	2	0	2	0	0	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	2	1	0	
12月	10	2	3	1	0	0	4	0	7	3	4	3	0	0	0	3	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	2	1	2	2	1	1	4	2	
合計	32	6	17	1	0	2	6	0	26	6	12	5	2	3	3	7	0	2	2	5	6	4	2	0	3	1	1	0	4	1	2	9	3	9	9	2

9月の事故傾向としては

体の使い方の不器用さから、雑巾がけ等の活動に伴う衝突や舌を噛む事故の発生が見られる。

衝動性の特性から、椅子に乗ったり、カーテンを引っ張ることによる転倒もあった。

子ども同士の関わりに伴う事故が理由としては多かった。

⇒活動に伴う事故に関しては、ある程度予測を立てて関わり、大きな事故につながらないよう関わり続けていくこと

10月の事故傾向としては

衝動性による走る中で止まり切れなかったり、不注意による転倒や衝突がある。車内での運転手へのちょっかいなどもある。

⇒児童の特性に合わせた事前の声掛けや対策、助手席の児童の利用を避けるなど

11月の事故傾向としては

子ども同士の関わりに伴う事故は、組み合わせの傾向がある。

車内でのトラブルに関しても、特性が見られる。

⇒特性や組み合わせに伴う事故の傾向をつかんだ上で、対策を行う。

12月の事故傾向としては

活動(鬼ごっこ、跳び箱など)に伴う活動についての打撲、転倒、指はさみなどがある。

利用実績表の入れ違い、エピペン取り扱いに関して職員のエラーがある

⇒応援の職員による事故に関して、ルールをぼてと、はびりすで対応を統一し係ること

車外への飛び出しについて⇒車を止めると外へ出ようとするため、予測して児に触れておく。(すぐにつかまえられるように) 助手席でも後部座席でも出ようとする。送迎の順番を変更することは難しい。

異食行為に関して⇒小さいもの(他児が遊んでいても)は目配りする。(基本なるべく出さない)